

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について 妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ（2020/04/17 更新）

日本産婦人科感染症学会
令和2年2月1日 第1版
令和2年2月12日 第2版
令和2年2月13日 第3版
令和2年2月15日 第4版
令和2年2月18日 第5版
令和2年2月27日 第6版
令和2年3月16日 第7版
令和2年3月31日 第8版
令和2年4月16日 第9版
令和2年4月17日 第9版 ver.2

要点

1. 感染が妊娠・胎児に与える影響

現時点では新型コロナウイルス感染によって、胎児の異常、流産、早産、死産のリスクが、高くなるという報告はありません。しかし子宮内における胎児のウイルス感染が疑われる例が報告されています。

2. 感染した場合の経過について

現時点では、妊娠中に新型コロナウイルスに感染しても、症状の経過や重症度は妊娠していない人と変わらないとされています。

ただし、一般的に、新型コロナウイルス以外の肺炎でも、妊婦さんが肺炎になった場合には重症化する可能性があります。加えて、妊娠中はレントゲン撮影や使用できる薬剤に制限があります。

3. 日常で気をつけること

- 不要不急の外出を控えてください。
- こまめに手洗いをしてください。
- 人混みを避けてください。
- ①密閉空間、②密集場所、③密接場面の3つの「密」が重なる場面を避けてください。
- 喫煙は新型コロナウイルス感染症のリスクとなります。ご本人、ご家族も含めて禁煙を心がけてください。
- 十分な睡眠と、バランスの良い食事で栄養を取り、体調を整えるように留意しましょう。

4. 働き方について

時差通勤、テレワークの活用、休暇の取得などについて、勤務先にご相談ください。

参考 厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策 ~妊婦の方々へ~」

<https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=2&ved=2ahUKEwicqrT7renoAhXJaN4KHaRIDIOQFjABegQIAhAB&url=https%3A%2F%2Fwww.mhlw.go.jp%2Fcontent%2F11925000%2F000620977.pdf&usg=AOvVaw2e1qeHHVNwS3Oh6iTwpZlW>

「妊娠中の女性労働者などへの配慮に関する企業向けリーフレット」

「妊娠中の女性労働者が休みやすい環境の整備に資する助成金のリーフレット」

5. 家族内に感染者、感染疑いのある方がいる場合

- 別室で過ごすなど接触を避けてください。
- タオルや食器の共用は避けてください。
- 家庭内でもマスクを着用し距離を開けてください。
-

6. 発熱などがある場合

妊婦さんで風邪の症状、37.5度以上の発熱が2日以上続く場合、あるいは強いだるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある場合は帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

7. 妊婦健診の受診について

- 体調に変化がない場合には、通常通り妊婦健診を受診してください。
- 新型コロナウイルス感染者と濃厚接触した場合、ご家族に感染者・感染の疑いある方がおられる場合は、受診前に、かかりつけ産科医療機関に電話でご相談ください。
- 新型コロナウイルスに感染している可能性がある場合には、妊婦健診受診を控えてください。まずは、帰国者・接触者相談センターにご相談いただいた上で、かかりつけ産科医療機関に電話でご相談ください。
- 妊婦健診の受診を延期する場合には、可能であれば自宅で血圧測定をして、記録しておいてください。不正出血、お腹の痛み、破水感、血圧上昇などの症状がある場合には、かかりつけ産科医療機関に電話でご相談ください。

8. 分娩について

- 新型コロナウイルス感染のリスクを避けるために、立ち会い分娩や面会をご遠慮ください。
- 緊急事態宣言の全国拡大により、遠隔地への帰省分娩（里帰り出産）は出来る限り避けてください。
- 主治医の判断により帝王切開になる可能性があります。
- 新型コロナウイルスに感染しているお母さんから生まれた赤ちゃんは、感染していないかどうか、検査します。お母さん、赤ちゃんともにウイルス陰性になるまで、面会はできません。直接の授乳はできません。
- 都道府県ごとに、妊婦さんが感染した場合の周産期医療提供体制が構築されています。
- 個々の対応については、かかりつけ産科医療機関において、主治医とよく相談してください。

新型コロナウイルスとは？

2019年12月30日に中国保健機関が公表した湖北省の武漢の「原因不明の肺炎」は、翌2020年1月7日には原因が新種のコロナウイルス（2019-nCoV）と特定され、遺伝子も同定されました。WHOは2月11日、本ウイルスによって引き起こされる疾患名をCOVID-19、国際ウイルス命名委員会はウイルス名を severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2)と決定しました。中国から全世界に広がり、3月11日、WHOはパンデミックを宣言しました。日本でも、感染者が増加し、政府は4月8日に7都道府県（東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、兵庫、福岡）に対し、緊急事態宣言を発令しました。4月16日には、全47都道府県に緊急事態宣言が発令され、北海道、茨城、東京、埼玉、千葉、神奈川、石川、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、福岡の13都道府県は「特定警戒都道府県」と位置づけられました。

コロナウイルスは、脂質の膜であるエンベロープに覆われたRNAウイルスで、普通感冒を起こす4種類のウイルスに加えて、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群（Severe Acute Respiratory Syndrome, SARS）の病原体SARS-CoV、2012年に流行した中東呼吸器症候群（Middle East Respiratory Syndrome, MERS）のMERS-CoVの6種類が知られています。今回のウイルスはこれら過去に報告されたウイルスとは遺伝子構造が異なっており、コウモリやセンザンコウなどの動物からヒトへの感染性を獲得し、さらにヒトからヒトへの感染性を獲得したものと考えられます。

妊産婦、妊娠を希望する方へのアドバイス

妊婦さんでは、大きくなった子宮が横隔膜を持ち上げて肺を圧迫するために、換気が抑制され、またうっ血しやすいことから新型コロナウイルス感染にかかわらず、一般的に肺炎が重症化する可能性があります。不要不急の外出をしない、人混みを避ける、こまめに手洗いするなどの注意が必要です。出勤形態や職場環境などは勤務先と十分に相談してください。

外出する場合は、飛沫感染を防ぐために可能であればマスクをかけることが望ましいのですが、WHO では健常者がマスクを予防のために装着する有効性を認めず、症状のある方がまわりに飛沫をまき散らさない効果のみとしています。マスクをしているからといって、安心しないでください。

糞便中にもウイルスが排出されますので、トイレに入った後や食事の前には必ず石鹸で手を洗ってください。

公共の場所で ATM などのタッチパネルに触れた後や、電車の吊革、手すりなどに触れた後には手洗いやアルコール消毒を行ってください。

医療機関には、他の妊婦さんや高齢者、免疫抑制状態や合併症のある患者さんも来院されます。感染を広げないため新型コロナウイルス感染症を疑って受診を希望される方は帰国者・接触者相談センターにまず相談してください。自己判断で複数の医療機関を受診しないでください。中国やイタリアでは医療機関における患者さん間の感染や救急車内の汚染が流行拡大につながったという報告がありますので、緊急性のない場合流行が終息するまでは極力受診を控えてください。オンライン診療や処方などは主治医にご相談ください。

新型コロナウイルスに感染した妊婦さんについて これまでに報告されたこと

武漢市内で妊娠後期に新型コロナウイルス感染症と診断された妊婦 9 例では、経過や重症度は非妊婦と変わらず、胎児への子宮内感染は見られなかったⁱ。(2月12日 Lancet)

新型コロナウイルス感染症のお母さんから生まれた新生児の胎盤病理解析を行った 3 例では、母子感染は認められなかったⁱⁱ。(3月2日中华病理学杂志)

妊娠中に新型コロナウイルス感染症に罹患した 13 例の妊婦のうち、1 例に妊娠 34 週の子宮内胎児死亡が報告されたが、その原因は胎児へのウイルス感染ではなく、母体の重症肺炎と多臓器不全によるものであるⁱⁱⁱ。(3月4日 Journal of Infection)

武漢で妊娠中に新型コロナウイルス感染症に罹患した 33 例の妊婦において、3 例に子宮内感染が認められ、いずれも児は救命できたものの、31 週早産の一例（母体肺炎で緊急帝王

切開)では重篤な肺炎と敗血症が見られた^{iv}。(3月26日 JAMA Pediatrics)

武漢で妊娠末期に帝王切開した6例中2例で子宮内感染のときに検出されるIgM抗体が陽性であった。(3月26日 JAMA Network)

イタリア ロンバルディアからの報告。7000件の分娩中、42例の妊婦が新型コロナウイルス感染と診断された。間質性肺炎が20例で、このうち7例が重症化し、ICUに入院したが、全員短期間で回復した。2例の早産があった。胎児死亡、新生児死亡は見られなかった^v。(4月8日 International Journal of Gynecology & Obstetrics)

108例の新型コロナウイルスに感染した妊婦のうち、3人がICUに入院した。1例の新生児死亡と1例の子宮内胎児死亡(上記3月4日の報告の胎児死亡と同一症例)があった^{vi}。(システマティックレビュー)(4月7日 Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica)

イランの症例報告。27歳妊娠30週の妊婦が新型コロナウイルス感染症を発症後に死産し本人も急性呼吸窮迫症候群(ARDS)のため死亡した^{vii}。(4月4日 Travel Medicine and Infectious Disease)

日常の感染予防

外出後や食事前などこまめに流水と石鹸で手洗いをしてください。20秒以上、手首まで洗ってください。新型コロナウイルスにはアルコールなどの消毒薬が有効です。

発熱や咳などの症状がある人との不必要な接触は避けましょう。家庭内に感染あるいは疑いのかたがおられる場合は別室に過ごすなど、極力接触を避けてください。タオルや食器の共用はやめましょう。

薬局や薬店(ドラッグストア)などで購入できるマスク(サージカルマスク)は健常者が着用することに感染予防の有効性は確認されていませんが、症状の有無に関わらず、感染者が飛沫を拡散することを予防できると考えられます。また、マスクをすることで、手指を不用意に口や鼻にもっていかないという効果があります。しかし、空気中のウイルス粒子は花粉や細菌に比べてはるかに小さく、またマスクの周辺から入り込むことがありますので過信は禁物です。マスクをかけていても鼻を出したり、口のまわりを開けたりすると何の意味もありません。マスクを外す時には、マスクの紐をもって着脱し、手を汚さないようにしてください。

うがいや鼻うがい、口腔洗浄には予防効果は認められていません。

自然宿主動物はまだ不明ですので野生動物との接触は避け、肉や卵は良く加熱してください。(わが国では食べ物からの感染は報告されていません)

家庭用の空気清浄機や免疫力増強をうたうサプリメントや特定の食品、民間療法、デト

ックス、子宮温熱、ホメオパシーやアロマセラピー、血液クレンジング、プラセンタ、ビタミン剤大量点滴などには新型コロナウイルス感染症の治療および予防に何の効果もありません。

現時点では予防接種はありません。BCG 接種が感染や重症化に有効ではないかという報告もありますが、十分な確証はなく、生ワクチンですので妊娠中に接種することは勧められません。

喫煙は重症化因子の一つとする報告がありますので、本人はもちろん受動喫煙の原因となる家族や同僚の禁煙を励行するとともに妊婦さんは喫煙場所を避けてください。

新型コロナウイルス感染が心配なときは

受診を希望される方は、まず帰国者・接触者相談センターに相談してください。必要に応じて、指示された医療機関を受診してください。複数の医療機関を受診することはお控えください。厚生労働省では、倦怠感や 37.5 度以上の熱発が 4 日以上続く方を受診対象としていますが、妊婦さんの場合には、リスクを考慮して 2 日以上続いた場合には受診をしてください。

本疾患に特異的な症状はなく、発熱や倦怠感などの症状が 4 日以上の比較的長期に続くといわれています。味覚障害、嗅覚障害が出現する場合があります。一方で、全く無症状の方（不顕性感染）もいます。新型コロナウイルス感染症とそれ以外の感染症を臨床症状やレントゲン検査だけでは区別することは難しいのです。新型コロナウイルス感染を確定するには、医療機関で PCR というウイルス遺伝子を検出する方法による診断を受けることが必要です。しかしインフルエンザのようにその場では結果が出ず、また感染症診療に対応できない病院・医院もありますので、帰国者・接触者相談センターに電話でご相談ください。さらに、検査で陰性であっても、後で陽性になることがあります。無症状であるが念のためとか心配だからという理由による検査は受けるべきではありません。PCR 検査は万能ではありませんので、感染症診療を専門とする主治医の判断に任せてください。抗体検査はまだ確立されておらず、一般的に使用できる状況ではありません。

仮に新型コロナウイルス感染であっても、現時点では妊婦さん以外とくらべて、妊婦さんが特に重症化するという報告はありませんので過剰な心配は不要です。しかし、一般的に妊婦さんの肺炎はご本人が重症化するのみならず、胎児に影響する恐れもありますので、母児の健康を守るためには適切な治療と対応が必要です。我々産婦人科医はお母さんと赤ちゃんを守る立場で、適切にサポートいたします。特に SARS や MERS 流行時には初期の

感染で流産が、中後期の感染で早産や胎児発育障害が報告されていますので**妊婦さんは感染しないようにするのがもっとも重要です**。感冒様症状があるときは市販の感冒薬や漢方薬の服用は可能ですが、自己判断は避け、医師や薬剤師に相談してください。抗菌薬（抗生物質）は無効であるばかりか耐性菌を誘導する可能性がありますので、万一新型コロナウイルスに感染した時に混合感染による細菌性肺炎の治療が上手くできなくなる可能性があります。自己判断で服用するのは避けてください。

妊娠している方が感染した場合

妊娠初期・中期に流産をきたす可能性は高くないと考えられています。また、胎児奇形の報告は現在のところありません。従って**感染が心配な場合、まずは自宅安静で様子を見てください**。37.5度以上の発熱が2日以上続く場合は帰国者・接触者相談センターにご相談ください。新型コロナウイルスに感染している可能性がある場合には、妊婦健診受診を控えてください。まずは、帰国者・接触者相談センターにご相談いただいた上で、かかりつけ産科医療機関に電話でご相談ください。妊婦健診の受診を延期する場合には、可能であれば自宅で血圧測定をして、記録しておいてください。不正出血、お腹の痛み、破水感、血圧上昇などの症状がある場合には、かかりつけ産科医療機関に電話でご相談ください。

妊娠後期の感染で、出産に至るときは他の患者さんに感染させないよう受け入れ可能な施設での対応になります。検査が陰性化するまで部屋から外に出ることを避け、赤ちゃんへの感染防止のために、面会や授乳はできません。産科医をはじめとする医療スタッフは院内感染予防のため全身を覆うガウンとアイガード、マスクを着用して診察・看護いたします。原則、面会や立会分娩はできません。肺炎などに加え、赤ちゃんの状態によって帝王切開になる可能性があります。その判断は主治医にお任せください。また、感染の拡大を防止するために、**感染もしくは疑いのある妊婦さんは帰省分娩（里帰り出産）できません**。

新型コロナウイルス感染症の治療について

現時点で特効薬はありませんが、インフルエンザや HIV、マラリアの薬、吸入ステロイドが有効な可能性があります。ただ、副作用の問題がありますので、血液の中の酸素濃度や全身状態をみて判断します。産婦人科医と呼吸器科、感染症科の医師が対応いたしますのでお任せください。

情報の収集について

感染症流行時には様々なデマが発生します。特に SNS により不確かな情報が拡散しがちですが、政府や国際機関、感染症を専門とする学会のホームページなど信頼できる情報をもとに行動してください。情報は随時アップデートします。

1. 厚生労働省：新型コロナウイルスに関する Q&A （英語、中国語、韓国語対応あり）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoudenguefeverqa_0001.html
2. 国立感染症研究所：コロナウイルスとは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/9303-coronavirus.html>
3. 国立感染症研究所：感染症疫学センター
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>
4. CDC（英語：English）
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/guidance-hcp.html>
5. 日本感染症学会：新型コロナウイルス感染症
http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31
6. 公益社団法人 日本産婦人科医会
<https://www.jaog.or.jp>
7. 消費者庁 新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする商品の表示に関する改善要請等及び一般消費者への注意喚起 について 3月10日
https://www.caa.go.jp/notice/assets/200310_1100_representation_cms214_01.pdf
消費者庁 新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする商品の表示に関する改善要請等及び一般消費者への注意喚起 について 第二報 3月27日
https://www.caa.go.jp/notice/assets/200327_1100_representation_cms214_01.pdf?fbclid=IwAR1dgTypxmpgMX1G0vxgJfRkmLPjYK5MgQKdB5mJLRISnnBjYOWal_TAcBU

無断引用・転載を禁じます。引用・転載は原則として本学会員に限ります。また、引用・転載時には本学会の許諾を得てください。

日本産婦人科感染症学会

理事長

山田秀人（神戸大学医学研究科産科婦人科）

広報担当

早川 智，相澤（小峯）志保子（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）

ⁱ Huijun Chen, Juanjuan Guo, Chen Wang, Fan Luo, Xuechen Yu, Wei Zhang, Jiafu Li, Dongchi Zhao, Dan Xu, Qing Gong, Jing Liao, Huixia Yang, Wei Hou, Yuanzhen Zhang. Clinical characteristics and intrauterine vertical transmission potential of COVID-19 infection in nine pregnant women: a retrospective review of medical records. *The Lancet*

DOI:[https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30360-3](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30360-3)

ⁱⁱ陈烁, 黄博, 罗丹菊, 李想, 杨帆, 赵茵, 聂秀, 黄邦杏 新型冠状病毒感染孕妇三例临床特点及胎盘病理学分析 *中华病理学杂志*, 2020,49 : 网络预发表. DOI:

10.3760/cma.j.cn112151-20200225-00138

<http://rs.yiigle.com/yufabiao/1183280.htm?fbclid=IwAR2k-irWjMhUG7B4jDvhlQi2954enhuNoct7edBd1hDDfqPttnAwDxKibOo>

ⁱⁱⁱ Liu Y, Chen H, Tang K, Guo Y. Clinical manifestations and outcome of SARS-CoV-2 infection during pregnancy. *J Infect.* 2020 Mar 4. pii: S0163-4453(20)30109-2. doi: 10.1016/j.jinf.2020.02.028.

^{iv}Lingkong Zeng, MD1; Shiwen Xia, MD2; Wenhao Yuan, MD1; et al

Neonatal Early-Onset Infection With SARS-CoV-2 in 33 Neonates Born to Mothers With COVID-19 in Wuhan, China *Research Letter JAMA Pediatr.* Published online March 26, 2020. doi:10.1001/jamapediatrics.2020.0878

<https://jamanetwork.com/journals/jamapediatrics/fullarticle/2763787>

^v Ferrazzi EM, Frigerio L, Cetin I, Vergani P, Spinillo A, Prefumo F, Pellegrini E, Gargantini G. COVID-19 Obstetrics Task Force, Lombardy, Italy: executive management summary and short report of outcome. *Int J Gynaecol Obstet.* 2020 Apr 8.

<https://obgyn.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1002/ijgo.13162>

^{vi} Zaigham M, Andersson O. Maternal and Perinatal Outcomes with COVID-19: a systematic review of 108 pregnancies. *Acta Obstet Gynecol Scand.* 2020 Apr 7.

<https://obgyn.onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/aogs.13867>

^{vii} Karami P, Naghavi M, Feyzi A, Aghamohammadi M, Novin MS, Mobaien A, Qorbanisani M, Karami A, Norooznehad AH. Mortality of a pregnant patient diagnosed with COVID-19: A case report with clinical, radiological, and histopathological findings. *Travel Med Infect Dis.* 2020 Apr 10:101665.

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1477893920301332?via%3Dihub>
